

アジア圏を中心としたアートによる 国際交流の模索



造形短期大学部
造形芸術学科
特任講師
木森 圭一郎

研究シーズの紹介

これまで2014年のマレーシアを皮切りに、インドネシア（2015）、マレーシア（2016）、インド（2017, 2018, 2019, 2020, 2021）、ベトナム（2018, 2019）、ネパール（2019, 2020, 2021）、ロシア（2021）、韓国（2021）、トルコ（2022）と様々な国と地域で開催された国際アートイベントに参加してきた。コロナ禍に突入した2019年以前は、実際に現地へ赴いての滞在制作（アーティスト・イン・レジデンス）が中心であったが、2020年以降のコロナ禍においてはウェブサイト上でのオンライン展示や、作品を開催国に送った上で、現地にて作品を展示するなど、様々な方法を模索・実施し、昨年2022年以降は現地での滞在制作を再開した（マレーシア2022, インド2023, ベトナム2023）。高度情報化され、国際化した現代のアート領域において、途上国と先進国という図式は適用されない。

相互に交流する他者との間において、常に互いは創造的な何かの先

鋒である。このような平和で公正な価値基準を共通理解とし、それを多くの人々に普及していく為には、その基盤となる芸術教育が必要となる。このような価値観を共有する、インド北西部ウダイプルに所在する総合大学の芸術学部、「Pacific College of Fine Arts（以下PCFA）」と、現在大学間連携のあり方を模索しており、2023年1月にPCFAを訪れ、学生に制作指導や制作実演実施、2024年1月にはPCFAのRajesh教授によるオンライン講演会を短大にて実施、そして2024年6月にはPCFAと短大の国際交流展「PCFA×ZOEI International Exchange Art Exhibition」を実施するに至った。

今後も相互に交流を重ね、互いのアートのニーズを確認し合い、より豊かなアートによる交流のあり方を模索していく。



アーティスト・イン・レジデンス

- アーティストが一定期間特定の土地や地域に招聘され、滞在しながら芸術作品の制作を行うアート事業。



① 外国大学との合同作品展の実施
(日本,九州産業大学グローバルプラザ,6月)



③ 制作実演を交えての技法解説
(インド,PCFA,12月)



② 外国人講師による制作実演
(日本,九州産業大学造形短期大学部,6月)



④ 参加アーティストや学生との国際交流
(インド,チットガール・フォート,12月)

期待される活用シーン

- 外国生活とアートを同時に体験・学習したいな・・・



諸外国の連携大学や組織へ希望学生の派遣



独創的な
アイデアや技術の獲得

- 言語は苦手だけどアートは得意なんだよな・・・



国際アートイベントの招待アーティストとして派遣
日常会話は主催者側が通訳や機械翻訳でバックアップ



言語に頼らない表現の
獲得と実践